

施策調査専門委員会資料へのコメント

五味高志

点検結果報告書について

点検結果報告書では、数値が明確化されているものと明示されていないものがあります。できる限り数値化できるものは数値で示したほうがいいのかと思います。

- 「水源林の確保事業では、確保対象として残されているのは、小規模又は権利関係が複雑・不明確な森林が多く、確保が困難となっている。」→確保対象として残されているものの割合
- 「流木被害の未然防止の工夫を図る等、第3期までの取組や課題を踏まえた事業が始められており、一定の成果が出てきている。」→一定の成果がとは数値化できないでしょうか？
- 「県民の期待する将来像に近づいているのか確認しながら取り組んでいく」となっていますが、こちらについては、早急に検討が必要かと思います。施策懇談会などの意見を集約し、いかに「期待する将来像」とするのか検討する必要があります。
- 「植生保護柵の設置による林内植生の回復は顕著であり、併せて実施した受光伐による光環境改善が林床植生の速やかな回復に寄与しているとみられた。」→速やかな回復とは？
- 「さらに県民参加型調査については、過去最高の参加者数となり、環境DNA調査も導入したことにより、調査地点数も過去最高となった。」→参加者数などは入るのでしょうか？これまでの参加者が〇〇であるの対して、〇〇名と過去最高となった、などをお願いします。

資料2-2 最終報告暫定版について

全体的にまとまりつつあるように思います。その上で、図や表に出来るものは出来る限り図表で入れるようにし、それを文章で説明するような方向での作業が望ましいかと思います。ずなわち、現状では、図表の素材となるものをできる限り入れ込む作業を進めることがいいかと思います。たとえば、以下のような図表です。

- 神奈川県気象と近年の降雨や気温の傾向変化
- 水源税の予算の推移やその内訳の図（棒グラフなど）
- 水源税による森林管理面積の推移やその内訳
- 神奈川県の森林の林齢構成の推移（水源税実施前と現状）
- 神奈川県水源税の導入による森林の密度変化図（グラフやマップなど）

今回の施策専門委員会でも、各委員からどのような図や表があるほうがいいのかなどの意見を出していただくといいかと思います。

参考資料1 グループ討議結果について

次回の懇談会に向けてグループ討議の中から出てきたコメントについて、最終評価や最終提案にむけて、県として検討できる案と、現状では難しい点を整理してはどうでしょうか？現状で対応できそうなものはなるべく、県民会議案として盛り込んでいければと思いますが、そうでないものは難しいと判断しておくことが重要かと思います。これは、あくまでも「県の案」としての提示でいいかと思います。その上で、次回の懇談会において、「対応できるもの」を具体的に懇談会内で議論していくことができるようになるかと思います。